

第13回 円山川流域委員会 議事録(概要版)

会議の概要

日時：平成17年11月7日(月)13時00分から16時00分
場所：ワークピア日高(日高共同福祉施設) 1F多目的ホール(豊岡市)

1. 開会

庶務担当の(株)東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

3. 報告

庶務から第12回委員会の議事内容について報告があり、審議決定事項の確認が行われた。また、第12回委員会以降の経過として、第5回課題検討会、オープンフォーラム、第6回課題検討会について報告が行われた。

畑委員からは河口部での水面勾配の増加による治水対策について意見があった。

4. 議事内容

- 4.1 委員の追加について
- 4.2 あるべき姿を考える上での住民意見の取り扱いについて
- 4.3 円山川緊急治水対策事業について
- 4.4 今後の委員会の進め方
- 4.5 その他

5. 審議内容および決定事項

5.1 委員の追加について

宇戸委員の退任に伴い、新たな委員の追加について議論された。主な意見・質問は以下の通りである。

主な意見・質問

- ・新たに委員を追加した場合、これまでの議論を共有することは困難であり追加はしない。ただし、ランドスケープデザインは重要であり、今後の円山川を考える上で必要であることから、別途課題検討会等で専門家を呼び勉強会を行いたい。(藤田委員)

委員の追加について、以下に示す審議決定が了承された。

- ・委員の追加はしない。
- ・ランドスケープデザインについては、別途課題検討会等を開催し、河川整備計画へ考慮する。

5.2 あるべき姿を考える上での住民意見の取り扱いについて

オープンフォーラム等で寄せられた住民意見を流域委員会として今後どのように河川整備計画に活かしていくか議論された。主な意見・質問は以下の通りである。

主な意見・質問

- ・流域委員会の住民意見への対応としては、意見に対して個々に答えていくのではなく、これまでのあるべき姿の議論に対して不足する部分を補足する形で活用し、どの部分に反映したかを示せば良いと考える。(上田委員)
- ・これまでの治水や地域とのつながりの議論や説明に対して、住民それぞれが様々な受け取り方をしている。もっとわかりやすい説明が必要なのではないか(上田委員)
- ・出水前にまとめた集約フロー図は出水後の住民意見を踏まえ、あるべき姿の再整理が必要である。また、意見交換会は旧豊岡市での開催や、若い住民を対象とする必要があると考える。(菊地委員)
- ・より多くの住民意見を収集する前に、収集意見の扱い方を決める事が先決と考える。(垣田委員)
- ・委員会として扱うことが可能な意見、不可能な意見を整理しておくべきである。どのような意見でも実現可能な幻想を住民に抱かせてしまう恐れがある。(菅村委員)

- ・河川工学上や歴史、社会的、地形上の問題で解決困難な問題、水との関わり方等何点かにわけて意見を整理する必要がある。（前田委員）
- ・意見の分類方法として、大きく分けてハード対策、ソフト対策もあり、その中を更にわけられる。（菊地委員）
- ・今回委員より頂いた意見を踏まえ、今後、住民意見の扱い方をしっかり議論し、次回以降の委員会では、頂いた意見の具体的な扱いを審議していきたい。（藤田委員）

5.3 円山川緊急治水対策事業について

河川管理者より円山川緊急治水対策事業の進捗状況について説明があり、その後、緊急治水対策事業の理解を深めるための検討ワーキンググループの設置やその作業内容について議論された。主な意見・質問は以下の通りである。

主な意見・質問

- ・緊急治水対策は計画ができており、事業も進捗している。住民も内容を理解しているのではないかと。別途 WG を設置し、緊急治水対策を議論する必要性はないのでは。（垣田委員）
- ・緊急治水対策事業は整備計画について考える上でも、深い関係がある。検討 WG 内だけで問題を扱うのではなく、委員会への資料提供を願う。（有本委員）
- ・検討 WG のメンバーとして、河川工学の専門家であり、23 号台風出水時の調査も実施されている神田佳一氏を推薦する。また、アンケート調査結果より立候補者の 3 名、委員長、委員長代理、推薦を受けた委員の中から神田氏を含む 4 名のメンバー（計 9 名）を委員長案として考える。（藤田委員）
- ・緊急治水対策事業に伴う河道掘削により植生への影響が生じると考える。このため、検討 WG のメンバーは当初案の 9 人から 10 人に増やし、新たに植物の専門家を入れるべきであると考え、菅村委員を新たに推薦する。（服部委員）

円山川緊急治水対策事業について、以下に示す審議決定が了承された。

- ・課題検討会の作業の一部として円山川緊急治水対策事業検討ワーキンググループを設置する。
- ・検討ワーキンググループのメンバーは 10 名で構成し、藤田委員、川合委員、山口委員、木之瀬委員、江尻委員、上田委員、垣田委員、菊地委員、菅村委員、神田氏をメンバーとする。

5.4 今後の委員会の進め方について

今後、委員会で検討していく内容と具体的な委員会の進め方について議論された。

今後の委員会の進め方について、以下に示す審議決定が了承された。

- ・次回委員会前に円山川のあるべき姿について課題検討会を開催する。
- ・第 14 回流域委員会では、検討ワーキンググループの報告を行い、円山川のあるべき姿について審議を行う。

5.5 その他

一般傍聴者からの意見

- ・危険な堤防をもっと調べて頂きたい。
- ・23 号台風の時には非常に水位が高くなった中ノ郷や日置地区についても、もっと議論して頂きたい。堰の撤去等についても議論して頂きたい。
- ・現地の状況をもっとわかって頂きたい。河積を阻害する樹木について検討して頂きたい。
- ・円山川本川だけでなく出石川についても改修を早く進めて欲しい。また、山林の整備や河道改修により下流へと流れ落ちてくる流木対策についても検討をお願いする。
- ・豊岡から城崎への道路の高架は無理でしょうか。